朝霞市立朝霞第一中学校

学校だより

希望を胸に未来へ前進する学校

校訓
自立
貢献
信頼

学校教育目標
・自ら学ぶ生徒
・思いやりのある生徒
・健康に努める生徒

令和８年 11 月２日　生徒数　９１１名



変わることがチームにエネルギーを与えます

校　長　　金子　二郎



例年を上回る数の台風が発生し、今年は 10 月末になってもその報道が続いています。災害としての直接的な被害はもちろん、農業への影響や生鮮食料品の値上がりなど心配の種は尽きません。他方、暦を見ればまもなく立冬を迎え、朝晩の冷え込みは季節が確実に移り変わっていることを教えてくれます。インフルエンザの流行も気になりますが保護者や地域の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

今年もふた月を残すところとなり、あっという間に時が過ぎてしまった感が否めません。私自身、短い間に生徒や保護者の皆様、職員はもちろん、地域や関係機関の方など、本当に多くの出会いがあり、様々なことを学ぶことができています。と同時に気が付けば小さな変化が身の周りでたくさん起きています。

舞台「千と千尋の神隠し」の海外公演でも活躍している女優の上白石萌音さんが、以前ラジオ番組の中で次のように話していました。「演劇の街ロンドンでは、普段劇場に来られないお客様をお迎えできる日を、どの作品も設けています。『リラックスパフォーマンスデイ』というのがあって、客席のルールをかなり緩めた状態での公演を行っています。閉所が苦手な方に扉を開け放したり、暗いところが苦手な方に照明を半分くらい明るくし、席と席の間隔も空けたりしています。普段、未就学児は入れませんが、赤ちゃん連れのご家族も、また子供が泣いても話しても大丈夫です。また『手話公演』もあります。役者の近くに手話通訳者が付いて一緒にパフォーマンスをします。このような『リラックスパフォーマンス』がとても面白いんです。客席が明るいので反応が全部見えます。観客の感情出力もとても豊かで、千尋がおにぎりを食べて泣くシーンでは、赤ちゃんたちが共鳴して一緒に泣いてくれます。ルールに縛れずに純粋に楽しむお客様の心に触れ、根源的なものを思い出させてもらえたような気がします。演者にとっても最高の経験でした。普段以上にお客様と一緒に創っているという感じがして、みんな終演後興奮していました。始める前は見えないのでドキドキしていましたが、『すごい経験をしたね。』と互いに言い合っていました。」



例えば日本では一部のクラシックのコンサートで、演奏中に声を出すことはもちろんのこと、紙のプログラムの擦れる音がするのもはばかれることもあります。体調が悪く、咳き込んだりしそうな時には、慌てて席を立たざるをえない場合もあります。もちろん「なんでもあり」の方が良いと一概に言うのも乱暴ですが、より多くの人が芸術を楽しむことができるという点では素敵な取組ではないでしょうか。「来る以上は暗黙のマナーを守らなければ」とか「今までそうしていたのだから、こうするのが当然」だというのではなく、より多くの人にとってどうすることが望ましいのかを考え、改める余地があるなら試してみるという姿勢は共感できます。リラックスパフォーマンスデイは様々な他者に対する配慮であると同時に、そうすることがより多くのファンを生み出すことで演劇自体を充実させることにもつながります。同じような発想で互いに幸せになれるのであれば、身の周りの些細なことでも変えていけたらと思います。

生き残る種とは、最も強いものではない。最も知的なものでもない。それは、変化に最もよく適応したものである　(チャールズ・ダーウィン)